



拾貳番物

下

特別
千12
3643
96(3)



目錄

懺法 一

鷲 三

石橋 五

鸚鵡小町 七

伯母捨 九

関寺小町 十一

乱 二

道成寺 四

望月 六

木賊 八

檜垣 十

讀物 十二



故
梅若誠
昭若重
梅若重
寄贈

懺法ノ事

△懺法ハ朝長キ香ニ漲リテ者外ノ能ハ事ノ懺法ハ太教
ノ年ノ懺法ハ太教小教云ニ六ヶ爰物ノ懺法ハ親世ニ漲リテ
有親世ノ外ハ事ノ懺法ハ先身一大教及之小教大教ハ
付タリノ物ノ只大小云ニ太教ニサワカ又極ニ太教ノ地紋クサリ
アトシ能ク字合テ悉ク太教ニサカワ又極ニ心得テサヘニ太
教ノ極也ク有之懺法ノ極意ノ秘変懺法ノスリト事
有之成行ヨニカニ教モナラ又極ニサ物ノ字ト成極ダクサニハ

か礼ハ改カ之礼ニテ初服ノ改ヨリ礼ル、モ有初服ノアイトニ服ノ
アイトヨリ礼ハ仕極モ有之礼ノ留年ニテハハニテ服シ右ニ
ヨリたノ多ニテテハスル時年ニラロスヘニ是物束ニテロスニ秘事ニ
淑リ指子ニテニテ出ル時服ラヒロケテ出ル極ト又ヒロケスニフサ
キテ出ル極トニ極方ニ他流ノ者ハ服ラヒロケテ出ル極ヨリ礼
有トアムアチガテニ服ラヒロケテ出ル礼アルニテハニ他流ラヒ
ロケテ出ルト、礼ナキ事モ有ト又ヒロケス出ルト、礼ナキ事モ
有ニ常流ハヒ習用トスルニ 礼極事先ニモ記スル初服

ノ改ヨリ礼ハ礼ヤウト又初服トニ服トノ間ニテ礼ハ礼ヤウトニ極
有是秘事ニ初服ノ改ヨリ礼ハト、小教大教大教心御テ
礼ハトソ心御ハヤスヘニニ礼極有初服ノ物ニ臺シ出ルニ並テ
腰ニ柄掛ラサニテ出テ礼ルハ服ラヒロケテ腰成柄掛ラシモ
持臺ノ酒ヲ汲テ呑テ礼ル、モ有之服ラヒロケテ持ナシニテ礼
ル、モ有又合掌ニテ礼ル、モ有ツクバウ時ニ礼ハ酒ニ碎テ礼ルハ
我ニ初服ノ行事ニテモサニ初服ノ地致モサニ 礼ナキ
初服ノ事ナク太教改ニツメテカニ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

路馬ノ能イ事

△路馬ハ親世ノ能ク親世者又鬼若ノ時メサレ、能ク十二ノ時ノ能ク
 脇ノ如ク宗盛杯ノ如ク、如ク之ニシテノ如ク金ノ風折大口ラエ、
 カウハイノ小袖ヲフシリ西ヒ夕西ニテスル能ク右ノ小袖ヲカワ
 キテ如ク他勝古馬ノ道叱ニ同夜中ノ時ハ白子リノ小袖ヲカワキ
 テ如ク夜中ナルヨシ、此ノ宗治ハ能ク赤キ小袖ヲカワキテ如ク夜中
 路馬ニテ有る白ノ有キカト多能ク、宗平母後ニテキイサキ人
 路馬ヲサシク、此ノ時路馬ノ常ノハノ常ニコノニサシク、トノ道叱見物

殺サレ、此ノ如ク、杯ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、
 路馬ノ常トシテ、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、
 ナシ、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、
 此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、
 イタキトリ、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、
 タル、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、此ノ如ク、
 有賜

道成寺親世ト合春トワカキメノ交 親世仰リハサタヌ前ノ鐘ヲワリ
しんた能方鐘と鐘樓(上テ有カト云能方鐘樓)ト云くはト云
合春ハ次方ノ前ノ鐘ヲ物シ之既いた能方鐘と鐘樓(上ト云次方
前ノ鐘ヲ物シ鐘ヲ物テ後次方サ之次方親世仰リハ仰リし能
心通ぬト云く鐘の休否否子あえん 次方合春ハ仰リ能も消
ぬト云く鐘のお休否否あまん 合春仰リはく〇と云く鐘の
ひ〇と云く鐘おとると云く〇ト云く 中央ハ大日大智を御 度ニ據
又中央ハ大日大智を御ト云テモフホフホトサナ竹の根有的ハ

度ニ據ル 乃成寺ノ祈リハ長クイノラヌ又おん鐘クイノルおんワキツレナド
大方下ノニテハヨリモクイノラヌ又おん永クイノル自分善友ハおん鐘ク
イノル又善友上ノイノリハ永ク祈ル之協モヨク仕ル者ニテナケレハサセ不
中ハ永クイノル之 乃成寺ノ祈リト云ハ之テ次方之鐘ノ内(ハ
イノラトスル雨ノ協ヒキヨセ殊致ニテサ時ガ協ノト云ク之テ次方之
其時太教寺上ノイノリニテ協仰リヘクイト行ニは極成何少教地
タサレサレ之少教園物ノ同ハ情也 又園物子ニテヨリ心ヲタスケ
大方ニサレハアタリニシヨコニテサレハカラスハハヒムタルハ善友作

中ノ打止前ヨリヨラヤクテ打止ト故人中傳ルカシテノ力カニエニア
コリトアガイカバト有ハ 道成寺蘭拍子有ク又草子流権垣
先此書ニモ蘭拍子昔ヨリ有クトア傳ルル親世又原年宗授ニ
後身ハ一宗授後アハ先ニ書ハ云クト後アハ何名預ハ云々太
夫仕少事方クトア傳ル親世方ハ云クハ双紙流権垣ハ昔ハ昔
ヨリ傳ヘハ云ク世上ノ者ハ極ニ云傳ル云昔ノ名人仕ト云事ハ
云ハ六十キ事ト宗授後アハ 乃乃乃寺ハ至教ノ礼シ之法會年ハ
蘭拍子ノ礼シ之乃乃寺ハ女拍子法會ノ年ハ男拍子トアハ先ヨリ

男拍子女拍子ノワカキ始リアハ大事ノ

蘭拍子又夜リノ事

蘭拍子傳リ初親訂汝傳リハヒモ分符傳リテ空甲ハ子ノ
世所傳立甲ハ舞ノ今春禪行ハ舞引ハおマリアハヨリ今春
方ハ今春ノ能トアハ云權午親世ヨリ傳リ初ハ友親世ノ能ノ昔ハ
親世今春トノ蘭拍子遠ト云甲中ヨリ親世今春ノ乃乃寺遠アハ
道成寺年ノ夏近年乃乃寺年ニ定リハ擲アハ取有ハ母後
テ乃乃寺ハ小紋宗授後アハ何大紋植石州ニ宗授道成寺ノ相

傳仕以テサセヤル其時ハ年廿辰ニテ互々中傳ハ

蘭指子ノ夏蘭指子ニ度目ノシテノ足ノツケヲ心付ケ指子トヤニ

是トテ大奉ニ 高階津原ノ親世老古ノニ及ヌヲ相傳ノ事

老古ノ及ヌ高階ノ及ヌヲ相傳ト云ハト有儀リニ 仔細山田ニテ

親九希^{新カ}及ヌ何高階津原ノ及ヌ道成寺お傳仕仕以時古實生モ

津原ノ及ヌ蘭指子お傳致中ハ九希及ヌニテ蘭指子ウウウキニ

太夫及ヌト足ヲウリテ也踏少ト九希及ヌ中ハハ高階及ヌ中

ハハ及ヌヲお傳ノ内ニ太夫ノ足ヲ見トラウトシテ被中ハトテ高階及

中ハ中感シク如シト道成寺中傳ハ

道成寺蘭指子ニテノ足高階ノ踏ハ右ニテ踏中ハ甲ハたニテ踏中ハ

大方出ハル又た右ニ踏中及ヌ有ニ之是トテ大奉ノ道成寺蘭指

子ハ女バカセナリ刻ナトモキヤニヤ成極ニテ中ハ蘭指子ハ右有也

中ハ赤上ノ解右ヨリたハ高階ノ小教中ノ赤上ニ太夫足指子有ニ

中ノ高階及ヌが見ニクキ物ノ能クシテノ方ヲ見テサヘニ

道成寺能クシテサシリスコシ強クヨリテサ知ニ蘭指子ニ成テ

サキハ出テサニ是ニ蘭指子ノ習ニ

獅子ノ拍子ノ事 五

△石橋脇ハ僧脇ニ至致段ノ段ニツ四ツ拍ニテホ上ニ一撃ハ謡一声
ナリ絨有クサシユト小謡ハ志賀ノ謡ト同事ノツケアイノ謡ハサ
ラリトホノ曲節居曲節ニ 仕年四五ノ事頭トシトカイニ金ノ
扇ヲ獅子口ノぬクハサミ下ニ切ニテモ又クリ分ニテモ仕也然ニハ
フク西ヲタレ上ニハ唐折ヲツボリ年ニ何モモタズ幕ヲ上ケテカ
ラ走りぬル拍ノ獅子ノ舞ニ成テハ六ヶ段事ナクハ園席六ヶ段ハ
太鼓ホビニテ獅子ノ舞ハ位ナクハ拍乃早ク下ホ早キカ拍ノ

首ヨリ獅子七段トキハ獅子舞リテハハ八段モ九段モ有ヘ
又左邊ナドニテハ思ノ外後ノ三段モ有ヘニ園席ノ内外ホニ
クキ六ヶ段ハ園席ノホ拍大キハ大事ノ石橋ノ舞イ事相公石橋ノ
溜シ語ヲテスル事モ有又早致ニテハ仕極モ有ニ但ニ園席斗ニ
テスル仕極モ有ニ獅子舞ノ内ニハ小致地段アリホカラズ自拍一
ニ度ハホ若クハ多クハ無用ニハ獅子舞能ニテハ太夫仕舞ニハスルソ
シラ見合ホ吹上ケトモ吹上ケトニ極ニ吹極有リハ笛吹上大事ノ
笛吹上 ハヤリヤララララヒヤララララヒヤヒヤリ

ハヤリヤラララハヤハヤリ

ハ太教ホノ大キ成初之
ハ太教ホノ大キ成初之

獅子舞ニ忘地アリ フホフホト云地ヲイム之

獅子ノ年少教辰ノチ振ノ年

初辰 ○○○○
二辰 ○○○○イマ○○
三辰 ○○○○
日乃

四辰 ○○○○
五辰 ○イマ□□□□
六辰 ○イマ□□□□
七辰 ○イマ□□□□
日乃

諸君ナレハアイヲ云内ニ他リ物牡丹ト巻トラハス巻ノサキニ牡丹ヲ
別ニ置之 獅子ノ舞ノ位急ノ急之位ハナシクハ物次方ニ早ク
チ之獅子ニ辰ト云夏有三辰過タラバサニ舞ニ成ルテモ有者ハト
中傳ハ先人ノ名知者之其間席ニテ獅子ニ成テハ竹ノ六ヶ敷

又ナニ蘭席が六ヶ敷い 蘭席今春控寄カリ太教抄柳
テニテイヤハテニテニイヤハテニテニイヤハテニテニイヤハ

是席彼急ニ後ハツテキ之獅子ニ成而タタツタタタ 是ヨリ

獅子ニ成 似織与な束ツカリハテニテニテニ 先モ席彼急ニツタテ テニテニ ツクツツテイテイ

先ヨリ獅子ニ成 獅子ノ蘭席今春控寄カリ又似織与な束ツカリ

上ニ極ノ太教ノキ極めじニ蘭席ノ内が太教小教ナニ六ヶ敷大奉之

小教獅子ノ蘭席ノキ極ノ変・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・

〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・〇・

小教モ蘭席ノ内席彼急ニ法次中ニツムル之小教蘭席ノキ極め
は大き似大奉之

石橋 江戸テ園ヲ記

△脇名宗彦ノ行テ一聲本紙 中任千代 松内の花と新小吹ととく シハヒリ

色丸ふ山形ハ キエヲク サレト小籠也常 今身の上よ老らま

ころ 先ヨリ合天 福をば有難や 心も スナ 子うハのるぬるの橋キ切

おわちけの竹人ハ思ひし オソトルテ らぬ キ柳 クリ改キ切ヲク

サシキハヒリ 寺切曲 虫を 別名 せむ 又 雅り キロケ改 け橋を校へ

初辰 ○ ○ 序ノ舞同奉年 ……^{ハシラヒモ} …… ○ ○ ○ ○ ○ トキ

二辰 ○ ○ ○ ○ △ ○ ○ ○ 流ツケ地ヲ造不可キ 長地一ツニテ年

…… ○ ○ ○ △ △ ○ ○ 流ヲ造長地年 三辰 ○ ○ 又ツケニ

テ上 ○ ○ ○ ○ 三辰ノ年 …… ○ ○ ○ △ △ ○ ○ △ ○ ○

又 …… ○ ○ ○ △ △ ○ ○ △ ○ ○ 寺造長地

四辰 月 ○ ○ 夕ム流 舞ノ流コイ合和祈の浦小 鳴渡^{ワカ合}ら だつる心

老^{○○○}と女^{○○○}を 白波^{カケリキツケ地斗キ}の荒^{○○○}鳥^{○○○}の音^{○○○}やか ○ ○ ○ ○ ○ 三辰 月 又 二辰

月^{○○○}モ 立別建^{○○○}行^{○○○}神^{○○○}の^{○○○}源^{○○○} 立別建^{○○○}行^{○○○}神^{○○○}の^{○○○} 里^{シノキ}の^{○○○}店^{○○○}り^{○○○}子

又^{カケリキツケ地斗キ}より^{○○○}く^{○○○}と^{○○○}立^{○○○}わ^{○○○}く^{○○○}ま^{○○○}モ ず^{○○○}り^{○○○}て^{○○○}より^{○○○}く^{○○○}と^{○○○}モ 下^{○○○}ハ^{○○○}大^{○○○}方^{○○○}園^{○○○}也

此^{○○○}水^{○○○}ト^{○○○}リ^{○○○}ニ^{○○○}流^{○○○} 物^{○○○}初^{○○○}小^{○○○}町^{○○○}ノ^{○○○}舞^{○○○}園^{○○○}寺^{○○○}小^{○○○}町^{○○○}ト^{○○○}同^{○○○}前^{○○○}老^{○○○}女^{○○○}ノ

舞^{○○○}成^{○○○}カ^{○○○}ケ^{○○○}リ^{○○○}ノ^{○○○}舞^{○○○}氣^{○○○}モ^{○○○}今^{○○○}春^{○○○}ノ^{○○○}能^{○○○}ク^{○○○}序^{○○○}ノ^{○○○}舞^{○○○}ニ^{○○○}モ^{○○○}ス^{○○○}ル

本 職 八

△ 脇^{○○○}次^{○○○}舟^{○○○}ニ^{○○○}テ^{○○○}如^{○○○}如^{○○○}常^{○○○} 道^{○○○}行^{○○○}何^{○○○}度^{○○○}モ^{○○○}ナ^{○○○}シ 一^{○○○}聲^{○○○}静^{○○○}キ^{○○○}ハ^{○○○}流^{○○○}初^{○○○}日^{○○○}又

越^{○○○} …… ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 本 職^{○○○}カ^{○○○}ハ^{○○○}

ス^{○○○}ク^{○○○}ア^{○○○}イ^{○○○}シ^{○○○}ラ^{○○○}イ^{○○○} 屍^{○○○}ヤ^{○○○}古^{○○○}と^{○○○}流^{○○○}す^{○○○}流^{○○○}キ^{○○○}上^{○○○}サ^{○○○}シ^{○○○}コ^{○○○}ト^{○○○}今^{○○○}尺^{○○○}如^{○○○}常^{○○○} 胸^{○○○}如^{○○○}月^{○○○}ハ^{○○○}常^{○○○}ス

静ニ依ニ休足舞ノ位序ノ舞ヨリサハヤクニ依色ハヤクニ時
小教ヨリヲサハホホホ切流静ニ別ニ年クタイナシ

延宝二年才五月亦白 御本凡ニテ宝生太夫春藤六郎次郎
一噌八郎右衛門 新九郎 高野九郎兵衛 亦被甲以通如此

願書

石親世小次郎セリ
九大倉九郎セリ

ニラナリ合大
行々降命頂禮八幡大菩薩八日域朝廷此奉主恩
世明君乃農祀より家祀を守らんる茶生を
サウお小之乃の金容をあらうて之所の権廊を
いひたはり家小志よりれ年よりとけく平相國
とふ者ありく心海を掌中萬民を懐れせし
先佛法のありま法の融あり柳曾祀天初乃法

ふらふら討ふ小糸より幸あり 流るる御りきあはけけ
の雨射を阿すり 世の何れも小徳をばせし人者あり
て起後又のくのもく 文治元年九月日正と強ふる
いふ乃毛ももいちくちりり 布より度とふ思ひ
文をあらくさるる 雲月を感じさるる 石をとり
折る雨より御の前日 娘と静とさるる 白拍子今極を
うらつおひきまき 花をみる 湯をぬぐひぬる 舞の神
序年三版も二舞も三版

長あ代八千世小一度おちりれ 白雲の山とぬまき
く山とぬまき ぬまきをねむ中のく 満ぬ心ち
祇うあきん 能くせと 静と静と 云他坊あをぬ
ゆれ八君も雨夜雨よ入せぬ 八各々 運中なり 宗と清書
室裡を守るん 為茶生をまきん 為ふ之身の人合容を
影して三前の控扉を井 匂る花を 室ふふさりの
年よりい來 平相通といふあわつ 雲海をききあ。

多^ル民^ヲを^レ徳^ニ礼^セ。正^シ氣^ヲ仙^ニ法^ノの^ハわ^ル。王^ノ法^ノの^ハ歌^也。柞^ノ富^ノ。
紀^ノ文^ノ前^ノの^ハ法^ヲ。奥^ノ守^ノ名^ヲを^レ宗^ノ廟^ノの^ハ印^ノ族^ノ小^ノ海^ノ府^ノす^レ義^ノ仲^ノ。
中^ノく^もを^レ後^ノ流^ノと^シて^レ此^ノ大^ノ切^ヲを^レ起^ス。奉^ノ。た^とち^ノ嬰^ノ。
呪^ノの^ハ靈^ヲを^レ心^ノく^レ。法^ノ海^ヲを^レ脚^ノ踏^リ。弁^ノと^レを^レ心^ノく^レ。地^ノ車^ノ小^ノ。
向^ノふ^もと^くあり<sup>。地^ノ車^ノを^レ君^ノ所^ノお^シ。玉^ノの^ハ乃^ノ子^ノを^レ起^スの^ハ。
あり<sup>。依^ルく^レ教^ノふ^レ。神^ノ的^ノ細^ノ文^ヲを^レ知^ヒ。脚^ノを^レを^レ起^スめ^つ。あり<sup>。
を^レ宗^ノ廟^ノを^レ起^ス。永^ニ年^ノ。其^ノ日^ヲと^シて^レ宗^ノ廟^ノを^レ起^ス。及^ニ書^ノ字^ヲ。</sup></sup></sup>

致^シ白^ノ紀^ノ法^ノ文^ノの^ハ奉^ノ。上^ノ八^ノ梵^ノ天^ノ帝^ノ。秋^ノ四^ノ天^ノ。天^ノ玉^ノ物^ノ。魔^ノ法^ノ。玉^ノ又^ノ道^ノ。
の^ハ真^ノ官^ノ奉^ノ。心^ノ廣^ノ。界^ノの^ハ地^ノ。天^ノ。勢^ノ。天^ノ。照^ノ。法^ノ。神^ノ。を^レ始^メり[。]
仔^ノ是^ノ。根^ノ。而^シ。法^ノ。同^ノ。德^ノ。皆^ノ。之^ノ。前^ノ。合^ノ。奉^ノ。心^ノ。玉^ノ。域^ノ。の^ハ。法^ノ。を^レ始^メり[。]
神^ノ。是^ノ。如^シ。我^ノ。私^ノ。八^ノ。極^ノ。之^ノ。前^ノ。松^ノ。尾^ノ。子^ノ。皆^ノ。起^ス。と^シ。日^ノ。中^ノ。玉^ノ。乃^ノ。大^ノ。小^ノ。乃^ノ。
神^ノ。祇^ノ。冥^ノ。乃^ノ。法^ノ。を^レ起^ス。と^シ。日^ノ。中^ノ。玉^ノ。乃^ノ。大^ノ。小^ノ。乃^ノ。
有^ル。者^ノ。の^ハ。け^レ。の^ハ。始^メ。り<sup>。氣^ノ。あ^ら。ハ<sup>。世^ノ。初^ノ。之^ノ。法^ノ。を^レ起^ス。と^シ。日^ノ。中^ノ。玉^ノ。乃^ノ。大^ノ。小^ノ。乃^ノ。
其^ノ。世^ノ。の^ハ。初^ノ。之^ノ。法^ノ。を^レ起^ス。と^シ。日^ノ。中^ノ。玉^ノ。乃^ノ。大^ノ。小^ノ。乃^ノ。
其^ノ。世^ノ。の^ハ。初^ノ。之^ノ。法^ノ。を^レ起^ス。と^シ。日^ノ。中^ノ。玉^ノ。乃^ノ。大^ノ。小^ノ。乃^ノ。</sup></sup>

此の仇を四方小返り人壽永二年四月日
らひ不徳とまは義仲朝書小編先を神前
小指け中世及津佐の兵たも上矢乃編を
記彼室あ小指く南を飯令頂礼八幡大菩
薩とく皆礼記を弟とと給 故世々如而持布也
竹く海令頂礼八幡大菩八日域朝使乃布也
るいせの建郡乃あうをたは室祀を予んりあ

らう世いをもせんりあふ之身のえんもうを何り
て之阿のきんひを井くうたまうり後よあまり
の年よりあのりる年相國とつる者何りく四海を
をあうろあ一方氏をかうらんきむこれ佛法乃
あういさうああので終りりもく曾祀又あの
みらのくふれか之名を宗廟の志くふきあす義仲
中くも重後胤とて此大さうをおこすとたと

た。あ。ふ。こ。志。ん。の。命。ま。う。を。何。り。り。く。二。前。の。檀。那。を。押。定。
結。了。す。こ。ふ。志。り。の。う。り。こ。あ。る。に。い。志。ま。う。こ。と。
子。若。何。つ。て。四。海。を。た。か。こ。り。ま。う。万。ん。を。あ。ら。ん。せ。
し。こ。れ。ち。か。う。の。あ。い。ま。う。わ。う。り。て。結。了。り。を。も。く。
曾。祖。天。り。ま。れ。み。ら。の。ら。ふ。り。り。こ。を。宗。子。の。志。を。く。ま。う。
ふ。す。身。外。の。事。く。も。そ。の。う。り。わ。ん。ら。く。こ。の。志。を。く。ま。う。
世。子。を。た。と。ん。は。志。り。の。う。り。を。ま。り。く。こ。の。う。り。を。ま。り。

ま。た。う。ら。う。の。志。を。く。ま。う。こ。の。志。を。く。ま。う。
志。れ。も。ま。い。の。た。め。く。ふ。り。た。め。よ。こ。の。志。を。く。ま。う。
あり。依。り。福。の。り。く。ハ。神。的。細。文。を。ね。か。い。贈。り。を。極。つ。
何。い。を。四。方。に。送。り。あ。る。事。永。く。の。み。日。と。こ。ろ。か。み。後。と。り

正。心。

致。白。起。後。み。事。と。ハ。梵。天。帝。秋。四。天。王。物。魔。法。王。又。
道。の。冥。官。奉。山。府。君。下。界。の。代。ハ。浮。勢。天。思。を。祀。を。

始めたり行夏相根富士海原然野三河合峯山
 玉珠の珠を楯前神宮加茂も布祢八幡三河松尾年
 野惣一々日本國内大小の神祇冥冥及諸路
 とも好まハ申乃神まうくささる神子小孫のり年
 ありはる偽りき何らハ汝物多務のし身をあり来世を
 阿鼻小羅龍飛きくまん者之ゆる起清文つくのし文治
 元年九月日さると後とたるハ才の毛もささるく

出たりたり

修習天照白切地也
 仍起清文つきのし切地也

敬白起清文の事よハ梵天帝釈天大王物魔法王又
 道乃冥宮泰山府君下界の地ハ行勢天照太神
 を始先より行夏相根富士海原然野三河合峯
 山玉珠乃珠守楯前神宮加茂貴祢ハ幡三河松
 尾年野惣一々日本國内大小乃神祇冥冥道清一
 致らりとも好まハ申乃神まうくささる神子小

わけくるハ牙の毛ももろろかいつりたり

又下界の地ハ仔細天恩を祈り始まり仔細お根留を願ふ徳
世々今も心 照る日布雲の大小の神祇冥冥たり
終まハ神乃神令向る神もみよる事句一付受信先何ハト云
細知と句切ヨセス引死テ魂モ智セラレ相ナリ仍起死又云文法元
年九月日
けろ句ヲ切テ布地ニ魂モアリ

勅進懐

ま序〜。廿もんんれハ人忠誠まれ秋の月ハ福ん人の雲
小隠れ生記長秋の永き夏廿とろりす人言句

カキナ
○チノチナ
安中此水つおろすます水名をハ志中もろりていと名
竹よりこいあ乃主人別とれん布やろろていつき
帳子あ〜〜な〜玉をほ〜め〜廿もんをせんろま〜
乃〜る志やふつと建立すの程の去場の終句人事をわか
〜〜〜復家坊泥深放画と勅進を〜神主神の正殿の出来を
世々〜ハ心ハの系〜は〜る苗来〜ハ殺〜死の上〜死
人御命〜白致白と天〜句〜と後〜

ふま初を懐の阿くハ社箇の中より信来りそ物
一卷の何く初進懐と名付つたうくハ社箇と
名れ^{チカヒトリニ}まはるく^{チカヒトリニ}みもんんれハ大忠教言ハ秋の月ハ
温祭志云云ハ隠き世記長初の永き^死夏路りす
乃き人もの^{チカヒトリニ}夏に中^死以帝^死以^死乃す^死法^死あ^死を^死は
智武^死皇帝^死と名付^死より^死乃^死の^死婦人^死ハ^死別^死也^死志^死云
や^死可^死く^死泣^死け^死懐^死ふ^死あ^死く^死ハ^死洞^死曲^死と^死信^死く^死め^死く^死思^死ひ^死と

吾^死法^死小^死雛^死〜〜^死至^死遠^死那^死佛^死と^死建^死立^死ま^死と^死引^死福^死の^死具
瑞^死乃^死始^死分^死ん^死事^死と^死出^死〜〜^死後^死宗^死坊^死況^死深^死法^死由^死と^死初
進^死す^死ハ^死解^死ま^死病^死の^死子^死然^死乃^死輩^死ハ^死世^死よ^死て^死ハ^死女^死比^死の^死樂^死
小^死ほ^死り^死乃^死高^死米^死ま^死〜〜^死を^死投^死子^死甚^死起^死の^死上^死小^死乃^死世^死ん
攻^死命^死秘^死言^死首^死致^死白^死と^死天^死も^死歸^死善^死と^死後^死く^死〜〜^死冥^死の^死人
人行^死を^死け^死〜〜^死志^死ま^死と^死何^死〜〜^死通^死〜〜^死〜〜^死
室^死秘^死と^死身^死後^死り^死乃^死養^死け^死と^死利^死き^死ん^死乃^死小^死之^死所^死の^死合^死容^死

今日中國の大小の神社實に殆ど一ならず。然るに
或る神社令く正々神のみあり奉りて此の儀を
らふに功を公れ出ずるを。第世の阿蘇山降臨記
其人有之。然るに又の如く。天保元年九月日正
信と稱するは卯の毛も亦奈く。のまをりたる

寛政三 辛 亥 十二月

安親寫之

